

地域創生科目 グローカル・コラボレーション(ネパール)

プログラム区分	海外実習	
主幹部署・問合せ先	世界共生学科	
研修先国・都市名	ネパール・カトマンズ、バネパ	
研修先	Association for Rural welfare, Nepal(ARSOW-NEPAL)	
プログラム概要	<p>この研修の目的は、多文化共生社会を担う能力のある人材を育成することである。具体的には、多文化コミュニケーション能力の向上とネパール地域の現状分析、課題発見、課題解決能力の養成を目指している。この研修では、ネパールの人々と協力して文化の紹介や体験を通じて、女性差別や社会問題、農村コミュニティなどの異文化理解や、各国での社会問題などのテーマで交流をする。最終的に、2人または3人のグループがテーマを選び、発表をする。このネパール研修は、学内での4日間の事前研修、ネパールのドゥリケル現地での研修（10泊11日）、国内研修（2日間）、2日間の事後研修で構成している。</p> <p>ネパール現地では、貧困、教育、格差、そして持続可能な社会の構築に焦点を当て、カトマンズに隣接するドゥリケル町をフィールドとして活動する。現在、首都カトマンズだけでなく、その周辺の町でもごみ問題、水問題、衛生問題が大きな社会問題となっている。さらに、教育の格差が社会内で貧富の差を広げている。このため、現地の小学校を訪れ、教育の現場を身近に観察することで、ネパール社会が抱える社会構造的な問題を理解し、大学で学んだ知識を活かして解決策を模索していく。</p> <p>また、国際的に問題となっている人身売買の実態を、現地の被害者の方から聞き、意見交換を行う。今後、日本社会も多文化社会へと発展していくでしょう。一方で、現在の世界では紛争や内戦、子供への虐待や人身売買、汚職などが多発している。これらの問題は発展途上国に限られたものではなく、日本でも存在していることがある。このような認識を持ち、世界の問題に対して包括的かつ積極的に取り組むことが必要である。その過程で、持続可能な社会を目指す中で、先進国である日本と発展途上国であるネパールの両方をより深く理解することで、豊かな社会を実現するための道筋を考えている。</p>	
日程	2027年1月下旬～2027年2月上旬（11日間）	
単位認定	グローバル・コラボレーション（2単位）	
他学科生の受入れ	可 受入れ可の他学科：全学科	
内容	語学研修：無	語学研修以外の内容：有
引率者の有無	全日程	
住形態	現地団体が用意したホテル	
参加費用 (概算・見込み)	参加費総額： 220,000円/人 大学補助金： 最大 50,000円	
その他	宿泊先は村のホテルで、滞在する部屋には鍵がついている。トイレは水洗式であり、シャワーも備わっているが、お湯があるとは限らず、場合によっては水浴びになることもある。	

体験記

地域創生科目

グローバル・コラボレーション(ネパール)に参加して

氏名：都築波美（2025年度参加）

現地の小学生と交流した際には、ペンキ塗りを通して学校の環境整備に取り組みました。私たちが訪れた小学校は貧困層の子どもたちが通う学校であり、施設は十分に整備されているとは言えませんでした。校内には鉄筋が飛び出している箇所や、清掃が行き届いていないトイレなどが見られ、安全面や衛生面において課題を感じました。そのような環境の中でも、子どもたちは壊れかけた遊具で元気に遊んでおり、その姿が強く印象に残りました。

また、滞在中のホテルではお湯が出ない場面があったり、街中では砂埃が舞い、川にはごみが溜まっている様子も見られました。このように、生活環境の面においても日本との大きな違いを実感しました。しかし、訪問先では JICA が協力して病院の建設を進めている地域を訪れる機会もあり、発展に向けた取り組みが進められている現状を知ることができました。

これまで授業で学んできた発展途上国の現状は、知識として理解しているつもりでしたが、実際に自分の目で見て体験することで、その認識がいかに表面的なものであったかを実感しました。現地での経験は、日本で当たり前前に享受していた生活環境や設備が決して当たり前ではないことに気づき、そのありがたさを改めて感じました。

一方で、人の優しさや温かさに触れる瞬間も多くありました。現地の人々はフレンドリーで、ホテルのスタッフも限られた環境の中で最大限のもてなしをしてくれました。このような経験を通して、

ネットの情報だけでは知ることのできない、生の人々の温かさや地域のつながりを肌で感じることができました。自分の目で確かめ、現地の人や物に触れることで、当事者にしかわからない経験を味わうことができました。

